

令和5年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議 会議議事録要旨

日 時 令和6年2月19日（月）午前10時～
場 所 蒲都市役所 本館3階 304会議室

1 開会

事務局より、配布資料の確認、会議について説明。

2 議題

(1) 協働まちづくり事業について

事務局より、まちづくり助成金事業、協働モデル事業、まちづくり賞、協働まちづくり指針推進事業について説明。

<まちづくり助成金事業について>

- ・報償費について、「3万円を基本」としているが、適切な金額を相談時や審査時チェックする必要がある。
- ・報償費について、生涯学習の分野では5千円が基準となっているが、公開で広く実施する場合など、対象者人数や時間によって個別に判断する必要がある。
- ・対象経費の妥当性については、審査項目にはないが、書類審査の際及び公開審査において減額すべきと判断された場合は、選考通知の際に交付条件として付記することを想定している。
- ・通信費について、オンライン配信などのネットワーク環境に係る費用についても考慮しておく必要があるのではないか。
- ・助成金制度の周知については、改正内容や実績などを見やすいチラシなどを作り配布したほうが良い。
- ・興味があるイベントや活動には積極的に参加したいが、知られていないこともあるので、周知を強化してほしい。

<協働モデル事業について>

- ・愛知工科大学とのモデル事業は今年度で終了となるが、これまでの取組みを振り返る場を設け、各関係者が成果と課題を整理し、今後につなげていく必要がある。

<協働まちづくり指針推進事業について>

- ・指針2 賀詞交歓会について
新たなつながりが生まれ意義のあるものであった。
冬に1回ではなく、このようなイベントが夏にもあると良い。
5人程度の会でも良いので気軽に集まる場が月1程度あると良い。
- ・指針3 地域の困りごと解決に向けて身近な人とのつながりを高めようについて
介護に悩みがある人と話せる場所づくりとして、元ケアマネジャーの方が起業した

認知症カフェ（マイカフェ）は、カフェの中で気軽に情報共有ができ、輪が広がるよい場であった。

各地域に目的が無くても立ち寄ることができる場所があり、ネットワークが作れていくことが理想だと思う。

マイカフェのような、情報が集まってくる場所が必要ではないか。

日常の一部になるような場所が必要であり、市内の小学校では外国籍の生徒が多い地域もあるので、外国人市民にとっても居場所づくりは大切である。

他市では、官民協働で、ごみ分別クイズや歴史体験、NPO 法人の紹介などを行っているイベントがある。

空き店舗を利用した期間限定のカフェなども良いのではないか。

介護について、仕事を辞めなければいけないかもしれないことが一番の不安だと思う。そういった不安を見える化する取り組みがあると良い。

<がまごおりまちづくり賞の表彰について>

小江まちカフェには、サプライズで表彰を実施する。

(2) 令和6年度協働モデル事業について

<担い手を「探す」「見つける」「増やす」「育てる」続く仕組みづくり>

（竹島俊成園でのイベント開催における運営ノウハウガイドラインの作成）

・ガイドラインについては、どうしたらできるか、どこまでできるかという視点で整理し共有できると良い。

・地域や場所特有の問題や注意すべきことなども盛り込む必要がある。

・露店を出すとき、音を出すときなど、内容に応じた安全対策やごみ、騒音、周辺住民への説明等について、ガイドラインに整理し共有できると良い。

・事業の受け手については、イベント主催者を主とした団体を想定しているが、今後調整する。

<蒲郡在住の外国人に対する持続可能な日本語学習サポート体制の強化と構築>

（日本語教室全体計画の作成）

・形原1区では、外国人市民が地域の行事に参加し、地域参画できている。

・外国人市民が日本文化活動等にも参加できるような関係を築いていけると良い。

・空き家などを活用した外国人市民が気軽に集まれる交流場所が各地域にできると良い。

・外国人市民が主体となった活動が出てくると良い。

・外国人市民との交流や、企業との連携も図れると良い。

・日本語教室について、文法のような堅苦しいものではなく、生活に必要なフレーズ（美容院に行くとき等）を相談でできる場所があると良い。

・事業の受け手については、市外の多文化共生推進に関わる団体等を想定しているが、今後調整する。

<バリアフリーアセスメント推進体制の構築>

- ・公共施設アセスメントにおいては、この地域をどのようにしていきたいかが明確にあってのもの。
- ・公園や駅前空間等、市全体のハード整備におけるビジョンを確認し、どこに焦点を当て、人材育成をしていくか整理できると良い。
- ・基本的な計画段階からバリアフリーに関しても意見反映すべきである。
- ・バリアフリーには、ジェンダーフリーや車を運転しない人へのバリアなど、色々なバリアが存在する。
- ・規模が大きな課題であり、単年ではなく長期的なビジョンが必要になってくるのではないか。
- ・事業の受け手については、事業内容等を整理し、今後調整する。

3 その他

来年度の会議予定について

- ・第1回 令和6年6月24日（月）午前10時～
- ・第2回 8月
- ・第3回 11月
- ・第4回 2月